

広報

# いちき串木野

2025年も、のびーる年になりますように！

新年号

R7. 1. 6 発行

1



LINE

いちき串木野市公式LINE

イベント情報など配信中！ぜひご登録ください



# 新年の ごあいさつ



いちき串木野市長  
中屋 謙 治

## 新年あけましておめでとうございます

市民の皆様には、健やかに輝かしい希望に満ちた新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。また平素より、市政に深いご理解とご支援を賜っておりますことに対し、年頭にあたり厚くお礼申し上げます。愛する郷土“いちき串木野”を、未来に誇りをもって引き継ぐことができるよう、一段の躍進を期して市政発展に邁進することをお誓い申し上げます。

### 昨年を振り返って

少子高齢化の進行とともに急激な人口減少社会を迎えようとしています。このため、本市は「人口減少・少子化対策」を最重要課題として取り組んでいます。子育て世代の経済的負担を軽減するため、保育料・学校給食費・子ども医療費の「3つの無償化」のほか、転出抑制と移住促進のため、最大300万円の定住促進補助金制度等を創設するとともに、子どもを安心して育てられる環境を整備するため、保育士等就職支援制度やこどもの居場所づくりに対する補助制度を設けています。また、生きた英語を学ぶため、ALTの増員やオンライン英会話を導入するなど、「英語のまち」に向け、まちの魅力を高めて選ばれるまちづくりに取り組んでいます。

昨年の本市の出来事を振り返ると、2月には、全国高校女子駅伝において劇的な優勝を飾った神村学園高等部女子駅伝部を祝福するため、市内商店街において優勝パレード及び記念セレモニーを行いました。多くの市民の皆さんがお祝いに駆け付け、ともに喜び多くの元気ももらいました。



4月には、串木野新港でまぐろの水揚げが1年ぶりに行われました。鈴なりのマグロの水揚げ風景は「マグロのまち いちき串木野」を力強くアピールし、まちを活気づけてくれました。



5月には、能登半島地震の被災地支援のため、本市職員2名を石川県輪島市に派遣しました。倒壊家屋の被害調査により支援活動を行うとともに、現地での活動を通じて得られた貴重な知験を今後の防災対策に活かしていきます。

7月には、本市の夏を彩る「串木野さのさ祭り」や「サマーフェスタ～いちき串木野花火大会～」が賑やかに開催されました。サマーフェスタのステージ上では地域で伝承されているさまざまな郷土芸能が披露され、祭りを盛り上げてくれました。



本市と甕島を結ぶ「フェリーニューこしき」の老朽化に伴い、新たなフェリー船の進水式が広島県で行われました。新しい船は、省エネ・省力化をはじめバリアフリーの次世代型船舶で「結<sup>ゆい</sup>LINE<sup>らいん</sup>こしき」と命名され、今年3月に就航予定です。甕島とのつながりを深めるとともに今後の地域の活性化につなげていきます。

8月には、市のスポーツ施設に愛称をつけ、命名企業とともに認知度向上と利用促進を図るネーミングライツ・パートナー契約を締結しました。総合体育館はフラァゴラッド鹿児島島の運営会社により「Fアリーナいちき串木野」と命名され、多目的グラウンド、テニスコート、パークゴルフ場は三井串木野鋳山株式会社により、それぞれ「三井串木野グラウンド」「三井串木野テニスコート」「三井串木野パークゴルフ場」の愛称が付けられました。また、秀栄ドームが株式会社日本水泳振興会により「NSP 秀栄ドーム」となりました。

国際交流事業として、本市の高校生8名を姉妹都市のアメリカ・サリナス市に派遣し、ホーム

ステイを通じて現地の高校生やホストファミリーとの交流を深めました。

甲子園では神村学園高等部男子硬式野球部が2年連続のベスト4という素晴らしい結果を残してくれました。ユニホームの袖口に「いちき串木野」の名前を入れて躍動する選手の姿に元気をもらうとともに、準決勝の関東第一高校戦では市民文化センターにパブリックビューイングを設け、多くの市民の皆さんとともに声援を送りました。

10月には、5年ぶりの市民体育大会が開催されました。初めて午前中だけの開催となりましたが、秋晴れの下、競技を楽しみながら地域を超えた連携を深めました。



「まちなかフェスタ」と名付けた産業まつりが、串木野地域中心商店街において開催されました。高校生と事業所のコラボや建設業などの産業体験ブースのほか、盛りだくさんの演出に活力と元気あふれるまちのにぎわいを感じました。

サリナス市との姉妹都市盟約45周年、南カリフォルニア鹿児島県人会創立125周年の節目の年にあたり、本市サリナス協会とともに親善訪問団を結成してサリナス市やロサンゼルスを訪れました。サリナス市長、姉妹都市協会長をはじめ本市出身者らとの交流を深めるとともに、これまでの交流の歴史の中で、ご苦労いただいた関係者へのねぎらいと、今後更なる交流発展を確認しました。

11月には、「薩摩藩英国留学生記念館」の開館10周年を迎え、特別企画展「long long journey 長沢鼎展」の実施とともに記念セレモニーを開催しました。アメリカから長澤鼎の子孫にあたる伊

地知ファミリー関係者や町田久成、松村淳蔵など多くの子孫の方々に出席していただき、羽島小中学生による発表や「旅立ちの地エッセイコンテスト」の表彰を行いました。



市来農芸高等学校は、南九州黒牛枝肉共助会の肥育牛高校生部門において2年連続の金賞を受賞しました。

神村学園中等部・高等部吹奏楽部は大阪で開催された全日本マーチングコンテストにおいて鹿児島県勢として初めて最高賞の金賞を受賞しました。全国大会を前に本市の「Fアリーナいちき申木野（総合体育館）」で開催された応援コンサートには、多くの市民が訪れ、神村学園のレベルの高い演奏と切れのある精練された動きに大きな拍手が送られました。

12月には、第22回KKBふるさとCM大賞2024においてグランプリを受賞しました。地域おこし協力隊と市職員で制作したCMで、2年ぶり2回目の最高賞の受賞です。これまでのCMはYouTube（右の二次元コード）でもご覧になれます。



こうして振り返ると、市民の皆様の「想い」と「行動」がまちの活力となり、人をつなぎ、地域を「元気」にしていることを改めて実感します。

これからも素晴らしい自然環境や人のつながり、先人が築いてくれた地域の伝統、文化など貴重な資源に磨きをかけ、まちの魅力を高めて地域の発展につなげていきたいと思えます。

## 新年を迎えて

今年は、いちき申木野市誕生から20周年になります。2025年（令和7年）は昭和で100年、戦後80年の大きな節目の年に当たります。戦争を知らない世代が大半を占め、我々は平和で穏やかな日々を当たり前のように享受してきました。ウクライナやパレスチナなど戦争に翻弄されている国々もある中で、改めて我々は先人の尊い苦勞や犠牲の上に今の平和と繁栄があることに感謝し精進しなければいけないと思います。

私は4年前のマニフェストに「誇りあるふるさとの継承」と「新しい時代への挑戦」を掲げました。先人たちが築き上げてくれた食や歴史、文化、さらには自然や人、魅力あるイベントなど、こうした大事な資源を大切に育て継承していくとともに、少子高齢化や人口減少による地域の衰退、地球環境の悪化など、社会の急激な変化にも対応していかなければなりません。

今年の干支は「乙巳<sup>きのとみ</sup>」であり、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年とされています。大切に守り育てていくべきものと、新しい視点で勇気をもって見直すべきものを峻別し、今後の動きを先取りしながら挑戦すべきときだと思えます。夢と希望に満ち、活気にあふれるいちき申木野市を目指して、市政発展に邁進することをお誓い申し上げ、本年がすべての市民の皆様にとって幸多き素晴らしい年となりますことを心よりお祈りして、新年のあいさつといたします。